

2008年(平成20年)度 第5回常務理事会記録

日時：2008年(平成20年)12月20日(土)12:00~14:00

場所：八重洲倶楽部 第9会議室

出席者：柴田洋三郎(理事長)、牛木辰男、岡部繁男、藤本豊士(以上、常務理事)、内山安男(オブザーバー)、依藤 宏(常任幹事)、天野恵子、川村知子(以上、口腔保健協会)

I. 会議記録の確認

2008年(平成20年)度 第4回常務理事会記録、同摘録(案)

II. 報告事項

1. 庶務報告(岡部庶務担当理事)

(1) 会員異動報告

平成20年9月分(入会者 正会員4名、学生4名、退会者 正会員4名、学生4名)

平成20年10月分(入会者 正会員2名、学生6名、退会者 正会員9名、学生1名)

平成20年11月分(入会者 正会員2名、学生2名、退会者 正会員1名)

逝去会員：

長谷川一夫氏(九州大学名誉教授/名誉会員)平成17年1月13日逝去(享年80歳)、

佐野昌雄氏(名古屋大学/名誉会員)平成19年1月14日逝去(享年85歳)、

保志 宏氏(東京大学元講師/名誉会員)平成20年8月27日逝去(享年80歳)、

三橋公平氏(札幌医科大学名誉教授/名誉会員)平成19年11月4日逝去(享年86歳)、

神谷敏郎氏(東京大学総合研究博物館終身学芸員/名誉会員)平成16年7月13日逝去(享年74歳)、

石川春律氏(群馬大学名誉教授/永年会員)平成20年9月23日逝去(享年73歳)、

岩佐峰雄氏(星成大学/正会員)平成20年3月5日逝去(享年58歳)

(2) 教授就任による申請学術評議員

2件の申請があり、理事会に上程することが報告された。

(3) 公益法人改革について

ガイドラインが発表されているが、前回常務理事会の時点からの大きな進展はなく、多くの学会が様子見であることが報告され、本学会としては非営利型一般法

人を選択する方向で進むことが確認された。

(4) ホルマリン規制について

厚労省労働基準局安全衛生部長より理事長宛に政令等の改正によるホルマリン規制についての留意点についての文書が届いた。それによると 1)作業環境測定：解剖準備室については法令に基づき定期的に測定をおこない、その結果に基づいて作業環境の改善を進めること。解剖実習室についてはホルムアルデヒドの発生が多いと考えられる解剖の開始時等に定期的に測定をおこない、測定結果に基づいて作業環境改善を行うことが望ましい。 2)作業主任者：作業主任者にホルムアルデヒドによる汚染、吸入を防ぐ作業方法を決定させるとともに、保護具の使用状況を監視させる等が重要。 3)発散抑制措置：準備室、実習室については、局所排気装置等の設置による曝露防止対策の実施が基本だが、局所排気装置等の設置が著しく困難な場合があること、その場合は全体換気装置の設置などの健康障害防止に必要な措置を講じなければならない 等が記されている。

(5) 「基礎医学教育・研究の危機」に関するアンケート結果

生理学会と合同でおこなった標記アンケート結果が報告された。アンケートは解剖学会に関しては 70 大学 102 名の教授より回答があり、その 99%が危機感を抱いていることが明らかになった。

(6) 名簿について

会員名簿に関するアンケート結果が報告され、未回答教育機関への対応、同一大学内での名称の統一方法等について検討がおこなわれた。

(7) 学会宛文書等

- ①通知・依頼 厚労省労働基準局安全衛生部長より「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び特定化学物質障害予防規則等の一部を改正する省令の施行に係わる留意点について」他 12 箇所 22 件の通知・依頼が届いている。なお、京大霊長類研究所長および医科歯科大難治研所長よりの共同利用・共同研究拠点への移行に関わる要望書作成依頼については、学会として協力することになった。
- ②書籍、定期通信他 日本医学会より「日本医学会だより No.40」他 9 箇所 11 件の書籍、定期通信等が届いている。

2. 編集報告（藤本編集担当理事）

(1) 解剖学雑誌及び ASI 刊行報告

両誌の第 83 巻 4 号の刊行について報告があった。

(2) 科研費申請について

ASI 誌の平成 21 年度科研費補助金への応募について報告があった。

(3) ASI 誌について

ASI 編集事務代行に関するシュプリンガー・ジャパン社との覚書について報告がなされた。

3. 企画・渉外報告（岡部企画・渉外担当兼任理事）

(1) 平成 20 年度奨励賞・解剖組織技術士功労賞候補者

江崎太一選考委員長による奨励賞選考結果報告書が提示され、理事会に上程されることになった。また、解剖組織技術士功労賞については 12 月 19 日現在で 1 級技術士に 1 名の応募があることが報告された。

(2) 平成 21(2009)年度総会・全国学術集会準備状況

標記第 114 回総会・全国学術集会の準備状況に関する報告があった。

(3) 平成 24 (2012)年度総会・全国学術集会開催校

3 校からの応募があり、理事会に上程されることになった。

(4) 平成 20 年度一級解剖技術士資格審査試験結果

解剖のみ 2 名、解剖および組織 1 名の計 3 名の受験者について、すべての科目で合格となったことが報告された。なお、年森清隆委員長よりの技術士試験に関する提言もあわせて紹介された。

(5) その他

① Anatomische Gesellschaft (AG) との交流：平成 21 年度は日本から AG 総会に出向く年であるが、日本の全国学術集会と会期が重なっているため、訪問は不可能となった。今後の対応は時間をかけて検討していくことになった。

② IFAA への対応：第 17 回国際解剖学会議については、個人としての参加、交流にとどめ、IFAA に対しては日本解剖学会としては距離をおいて見守る姿勢であることが報告された。

4. 会計報告（牛木会計担当理事）

(1) 支部学術集会決算報告

近畿支部を除く 5 支部の学術集会収支決算について報告がおこなわれた。

(2) 平成 20 年度中間決算書報告

平成 20 年度の 10 月次決算について報告と説明がおこなわれた。

III. 審議事項

1. 新入会員の承認

資料をもとに審議がおこなわれ、20 名の新規入会希望者全員について承認された。

2. 教授就任による学術評議員審査

1 件の申請について審議がおこなわれ、承認された。

3. 永年会員の推薦

19名の候補の方について、本人の意向を伺った上で被推薦者を決定することになった。

4. 役員選出規約の改訂（案）について

役員選出規約「7. 役員に欠員が生じたときは、就任の日から6ヶ月以内ならば次点者を繰り上げ当選とし、6ヶ月を越えた場合には、原則としてすみやかに選挙を行い、これを補充する。但し、その任期は前任者の残任期間とする。」を「7. 理事および監事に欠員を生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。常務理事に欠員を生じたときは、理事の欠員を補充したのち互選により再選出する。ただし常務理事の残任期間が短い場合には他の常務理事が兼務することを妨げない。」に改訂することが諮られ、承認された。

5. 会費規約の改定（案）について

会費規約 2. 年会費（5）終身会費「60歳に達した正会員は終身会費として当年度を含め10万円を一括前納することができる。」を「60歳に達した正会員で終身会費の納入を希望する者は、当年度を含めた65歳までの年会費に10万円を加算した額を、終身会費として一括前納することができる。」と改訂する案が提案され、承認された。なお、この改定案による終身会費は永年会員推薦規約（1）の「学術評議員として10年以上の経歴を有し、終身会費を納入した60歳以上の正会員」にも適用されることが確認された。

6. 平成21年度事務委託契約

口腔保健協会との平成21年度の事務委託契約（案）が提出され、審議の結果、承認された。

7. 平成21年度事業計画（案）

標記（案）が提案され、承認された。

8. 平成21年度仮予算（案）

標記（案）が提案され、承認された。

9. その他

生理学会との合同開催が予定されている平成23年（2011年）度の全国学術集会について、生理学会との話し合いを始めたことが報告された。